



さいたま市PTA協議会
http://www.saitama-city-pta.jp

いじめ防止スローガン
みんなで子育て よく見て、よく聞き、よく話そう！
みんまで子育て よく見て、よく聞き、よく話そう！
見逃しません、子どもの小さな変化
ためらいません、子どもとの対話
連携します、家庭・学校・地域

市P協 さいたま

No.42

令和4年3月2日
発行 さいたま市PTA協議会
編集 広報情報委員会
事務局 さいたま市大宮区吉敷町1-124-1
大宮区役所4F
TEL 048-647-4401
印刷 株式会社エース広告

家庭・学校・地域のさらなる連携へ ～より深い絆を築いていくために～

2021年11月2日、ホテルプリラ
ンテ武蔵野(中央区新都心)にて、さい
たま市PTA協議会創立20周年記念
式典が開催された。

新型コロナウイルスの感染状況が落
ち着いている時期での開催ではあった
が、十分な感染対策を施し、十分な座席
間隔を確保しての開催となった。

さいたま市副市長日野徹様、さいた
ま市議会議長島崎豊様、さいたま市教
育委員会教育長細田眞由美様、(公益
社団法人)日本PTA全国協議会会長
清水敬介様ら公務ご多用中のなかご臨
席賜り、温かいご祝辞を頂戴した。

開会式が終わると、日本PTA全国
協議会が制作した、「令和の日本型学校
教育」の動画を上映した。

視聴後、「さいたま市のこれからの学
校教育」をテーマに、細田教育長、清水
日P会長、岡野市P協会会長を交えて、20
周年記念特別対談が行われた。

対談後は、演者による「弦楽四重奏」、
そしてスクリーンでは「さいたま市内
小中学校紹介映像」が上映された。

また、さいたま市PTA協議会歴代
会長も駆けつけて下さり、創立当初の



創立20周年を迎えました


志や当時の思いをお伺いし、歴代会長
を支え続けてきた事務局長へ感謝状が
贈呈された。

閉会後にサプライズとして、来場し
て下さった皆全員で輪になり、V6の
「WAになっておどろろ」を踊った。

これからも、この絆を胸に人と人と
が繋がりあえるPTAを目指し、活動
をしていきたいと感じた。

三行詩キャンペーン ～家庭で話そう！我が家のルール・家族のきずな・命の大切さ～


●厚生労働大臣賞 ●さいたま市PTA協議会会長賞



蓮沼小学校(一般)
神山 陽子さん

●佳作 ●さいたま市PTA協議会会長賞

授業参観
「こなくていいよ」と言ったけど
探してしまう母の姿



与野東中学校
山本 優さん

浦和
URAWA
区

浦和区PTA 連合会紹介

さいたま市PTA協議会は10区の連合会(区P連)で構成されている。区P連はそれぞれ特色のある運営を行っている。そこで、なかなか知る機会の少ないその活動の様子をシリーズで紹介する。今号では浦和区を取り上げる。

特徴
文教都市として知られる浦和区は、小学校13校及び中学校5校の計18校で区P連を構成している。市の中央に位置することから隣接する区が多く、中学校進学時に、南区・緑区等へ所属する区が変わる地区も多い。

「昨今のPTAを取り巻く環境に押されるように、安易に簡素化・省エネ化を目指すようなことはやめよう。一方で、同じ結果を得られるのなら積極的に『楽』をしよう」という方針の下、会議・活動にワールドカフェ方式を取り込むなどした前体制の理念を引き継ぎつつ、今年度は更に、PTA活動の義務的な側面からも目を逸らさず、各校に「平等の義務と権利」の認識を求めている。何のために、どのような立場で集っているのか、理解して共有して、本当の意味での協力関係の構築を目指している。

校長・会長会
各校の校長とPTA会長が一堂に会する会議で、浦和区の全ての児童・生徒のより良い教育的環境を整えることを目的に、年度に1回開催している。それぞれ学校運営の責任者と保護者代表という立場から、PTA活動や学校運営等について共通理解を構築する非常に貴重な機会となっている。

2年ぶりの開催となった今年度は、コロナ禍でPTA活動そのものが1年間ほぼ空いてしまったこともあり、基本に立ち返って、学校で行われていることに興味を持つ、教育現場の旬な話題を「知る」ということをテーマにしようということから、「GIGAスクール」を扱った、ピンチをチャンスに変えて、3年も前倒しで整えられた「1人1台端末」。大東小の永井校長と本太中の木寺校長からは、小・中学校それぞれ活用の事例を、浦和中の吉野先生からは、令和元年度からの先行導入の状況を、それぞれ御紹介いただき、「ICT化は今のところ、教員にとってはむしろ大変(負担)」といった実情も聞くことができた。会場

いじめノックアウト・セミナー
教育委員会学校教育指導2課の御協力により、平成30年度から区P連主催事業として実施している。いじめの定義や現状、撲滅に向けた教育委員会の取り組み等について見識を深める貴重な機会となっている。

直近では令和元年度に実施し、9割の子どもが「仲間はずれ、無視、陰口」を「されたことも、したこともある」という調査結果から、いじめはどの学校でもどの子どもにも起こりうるということ、また「親に知られたくない」という子ども心理があることを共有し「見逃しません、子どもの小さな変化」という思いを新たにしました。散会後も講師への質問を待つ列がなかなか途切れなかった。コロナ禍が収束した暁には、また是非とも実施したい事業である。




さいたま市PTA協議会 「児童・生徒ワイド補償制度(こども総合保険+自転車総合保険)」

- 第一次締切日：3月25日 補償期間 2022年4月1日～2023年4月1日
- 第二次締切日：4月20日 補償期間 2022年4月25日～2023年4月1日

本広告は制度の概要のみを記載したものです。ご加入に際しては重要事項説明書をよくお読みください。不明な点等がある場合には代理店までお問い合わせください。

新型コロナウイルス感染症に対応!!
特定感染症補償、病気の補償は、
新型コロナウイルス感染症も補償の対象となります。

埼玉県自転車条例
さいたま市自転車条例
に対応しています!

団体割引等適用により
保険料が割安!

自転車事故等による損害賠償責任も
無制限で補償

※ご家族全員が対象 ※国外は3億円まで補償となります。

示談交渉サービス*付き!
小学5年男子児童の自転車衝突で母親に約9,520万円の賠償命令(神戸地裁判決)
*示談交渉を行う場合は、被保険者および被害者の同意が必要です。国内のみのサービスとなります。

ケガの補償
24時間補償で安心!

- ◆学校内でのケガはもちろん、休日も含め24時間ケガを補償!
- ◆地震等によるケガも補償!
- ◆細菌性食中毒、ウイルス性食中毒や熱中症による死亡・後遺障害・入院・手術・通院も補償!

扶養者の方が事故で万一の際に
育英費用を補償

高校3年間と大学等の合計で
約939万円の教育費がかかります!

出典:株式会社日本政策金融公庫
「教育費負担の実態調査結果」(令和元年度)

取扱代理店・扱者
AIGパートナーズ株式会社
さいたま支店
〒330-0846 さいたま市大宮区大門町3-54
TEL 0120-991-341(通話料無料)
(受付時間:9:00～17:00 土、日、祝日、年末年始を除く)

〈募集締切日〉
第一次締切日：3月25日 投函締切
補償期間 2022年4月1日～2023年4月1日
第二次締切日：4月20日 投函締切
補償期間 2022年4月25日～2023年4月1日
詳しくはパンフレット等をご確認いただくか、取扱代理店・扱者までお問い合わせください。

〈引受保険会社〉
【幹事会社】 **AIG損害保険株式会社**
担当支店：埼玉支店
〒330-0846 さいたま市大宮区大門町3-54
TEL:048-641-4050
【非幹事会社】 東京海上日動火災保険株式会社
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
S-210122(2023-03)



公益社団法人
日本PTA全国協議会会長
清水敬介

日本PTA全国協議会が「令和の日本型学校教育について」という動画を作成しました。作成した背景や目的を教えてください。

清水

中教審(中央教育審議会)は、「国の教育の根幹」について、教育関係者や様々な分野の代表者が集まって協議をする会議体です。日本PTA全国協議会の会長は、全国の保護者を代表した立場で委員をさせて頂いてます。中教審では話し合った内容を国に提出します。中教審がどんなことをやっているのか、これからの教育がどうなっていくのかを全国800万人のPTA会員にわかりやすく表現する方法がないかということ、役員で協議

しました。今回の動画は一般の方々からみて、中教審が協議している事、これからの日本の教育が目指すところを分かりやすくお伝えするために制作しました。

Youtube【QR参照】から

検索もできますが、(公社)日本PTA全国協議会のホームページ【下記URL】からでも参照可能です。

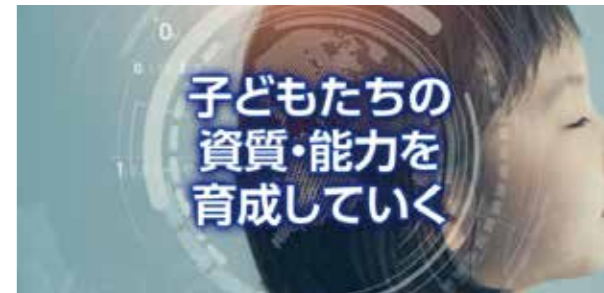


<http://www.nippon-pta.or.jp/news/apleht00000115m.html>

細田

本当によくできた動画だなと感激しました。これが我々が具現化せねばならない令和の日本型学校教育そのものです。行く先が不透明なコロナ禍で、あたりまえの事があたりまえでない事を思い知らされた中、目の前の子ども達はどんな力を身に付けていけばいいか。まさに自分のよさや可能性

令和の日本型教育について



に気づき、あらゆる他者を尊重する。そしてダイバーシティにあふれた世の中を理解し、つないでいき、持続可能な社会の担い手となる。これが子ども達に求められている力です。子どもが主役である事を皆さんと共有することが最も大事なポイントです。新しい学習指導要領、中教審答申では二つのこれまでと全く違う事に取り組んでいます。

一つ目がGIGAスクール構

想です。いま一人一台の情報端末を手に取りながら日々教育を実践しています。教育委員会としては令和の日本型教育の肝になるのは、このGIGAスクール構想で配られた端末をいかに有効に使い、子ども達の個別最適で協働的な学びを実践するか。それが追い求めている姿です。具体的には、まずICTインフラとして一人一台の情報端末が整備され、高速大容量のネットワークが168校すべてに整備されました。これ

今学期当初はハイブリッド授業が行われました

細田

学校へ登校して授業を受ける。

最後に言っていたきたい
夏休み明け、ハイブリッド授業はチャレンジとしてやらせていただき、分かってきたことでもあります。どの程度のトラフィックかも分かってきました。コロナの第6波や他の災害が起きた時、市内全員の児童生徒がオンライン授業を強いられる状況になるかもしれない。そのため、もう一度すべてのお子様にご自宅から繋いでいただき、どの程度繋がるかの実証実験を考えています。その際はご協力をお願いします。

岡野

本日は皆様から貴重なお話をたくさん頂き、大変感謝申し上げます。市P協としては、これからも会員の皆さまからの声を集約し、教育委員会の先生方と意見交換や議論を重ね、家庭・学校・地域のよりよい関係を築きながら進めていきたいです。

全国的にはどうでしょう?

清水

先程教育長がおっしゃったとおり、GIGAスクール構想において子ども達に端末が配られ、全国的に配備されました。私の地元名古屋市では端末自体に不備があったり、思うように活用されていなかったりという事例がまだまだ問題としてあります。また、どの地区でも課題だと思いが、先生方が端末を有効に使えるようになるのかという事

保護者からは当時のハイブリッド授業について様々な声がありましたか?

岡野

市P協では会員の皆さまにご協力いただき、アンケートを実施しました。「チャレンジしてくれた先生方に感謝。」「分散登校の方が良かったのでは?」「ハイ



さいたま市PTA協議会
会長
岡野育広



清水
学校だけに任せておけば良いわけではなく、家庭教育が一番大事である事は前から言われているが、こんな時代だからこそ、



ファシリテーター
さいたま市PTA協議会 前会長
青羽章仁



さいたま市教育委員会
教育長
細田真由美

■具体的にどのようなICT化に取り組んでいますか？

保護者へのメール配信、問い合わせ対応、ファイル管理の3点をクラウドサービスで行っています。これまではUSBメモリでデータを管理していましたが、紛失が心配との声がありました。そのため、まず「脱USBメモリ」から取り組むことにしました。具体的には、主に新入生保護者にむけて本校独自のPTAガイドブックを配信し、メールアドレスや氏名などを登録(エントリー)してもらうようにしました。「エントリー」でいただいた情報をクラウドサービス経由で活用できるようにすることで、作業の属人化も解消し、負担軽減に役立っています。

〜クラウドサービスの導入までにどのくらいの時間がかかりましたか？

構築自体は会長と副会長の2名で行い、数日程度で終わりました。ただ、構築そのものよりもどう使ってもらうか、どんな悩みを解消するか、の検討に時間をかけました。先ほど触れた「エントリー」も、保護者のみなさんに簡単なことから協力いただき、徐々に

慣れていってもらうことで、安心して参加してもらえよう工夫しています。共働き家庭の保護者でも参加しやすい「軽さ」を作るよう心がけています。

〜保護者全員がシステムに参加できているのでしょうか？

メールは全保護者に登録いただいています。他の仕組みについては、わずかに参加いただけていない方がいますが、メールや他の仕組みで相互に補完しているため、いずれかの方法で情報提供・共有ができています。

〜ICTと聞くとスキルが必要、と身構えてしまいがちです。何かスキルが必要なのでしょうか？

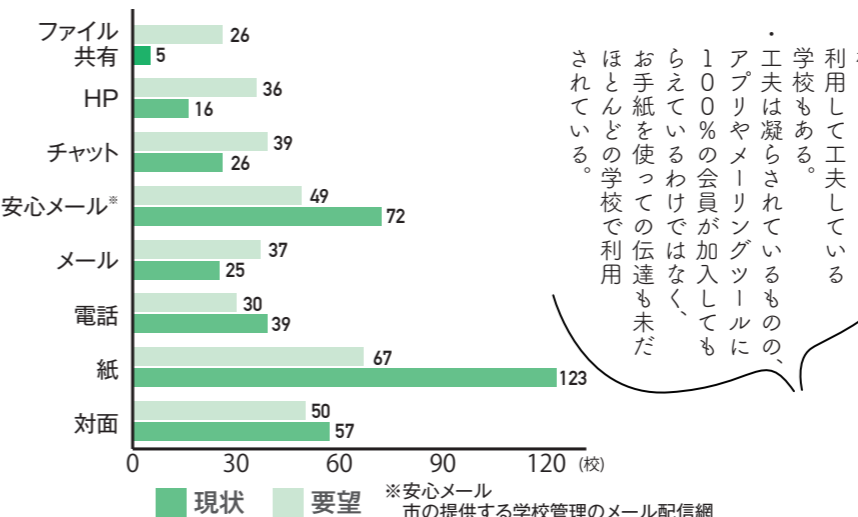
ほとんどやったことない人でも引継ぎ可能な程度で作っています。技術者にしかできないということはほぼゼロにしています。

〜ICT化をする上で、取って対面や学校でやることを大切にしていることがありますが？

やみくもに全てをICT化するのでは



令和3年12月実施 回答数129校



本部と会員間のコミュニケーションについて

様々なアプリを利用して工夫している学校もある。工夫は凝らされているものの、アプリやメールリングツールに100%の会員が加入してもらえているわけではなく、お手紙を使っている学校も未だほとんど利用されていない。

PTAのICT化

クラウドサービスを利用してICT化を開始した美園南中学校と上落合小学校。ICT化を目指した目的や背景について、ご意見を伺いました。

■現在の取り組みを教えてください。

クラウドサービスを導入し、執行部や各種委員会の活動記録表の作成や、PTA室の予約と共有、保護者へのメール通知等、PTA活動におけるほとんどの業務を行っています。

〜導入に向けてどのような準備をされたのですか？

広報編集部特別委員長であった小田桐さんが、広報紙で人員を募り令和元年度に準備委員会が立ち上がりしました。そして令和2年度の11月にクラウドサービスの運用を始めました。

〜小田桐さんはICT関連の知識に詳しいのですか？

全く違います。広報畑です。上落合小には約850名の児童がいますから、これだけの保護者さんがいると、「呼びかけるときと誰かが手を挙げてくれる」という根拠の無い自信はありません。

その時誰よりもレスポンスよくLINEに反応してくれたのが、現デジタルプロジェクト委員長である織田さんでした。

〜小田桐さんのその行動力と信じる力は素晴らしいですね。

ICT化してどのような変化がありましたか？

活動記録表をWeb上で皆が共有できるようになったことで、各委員会の作業内容や状況が見えるようになり、効率よく動くようになりました。

ほとんどの作業が自宅で出来るようになり、学校とのやり取りもオンライン上で出来るようになったことで学校に来る回数がとても減りました。

また、運営を行うためにデジタルプロジェクト特別委員会を新たに新設したのですが、任期を3ヶ月にしたところ、そのくらいの期間であればと男性が多く参加してくれるようになりました。

■利用者の中にはICTが苦手な方もいるかと思いますが、馴染めない方もいるのではないのでしょうか？

不安に思われる方には「LINEと一緒に」から「LINEと実際に、特別なことはなくてLINEと同じレベルでスマホからアプリを使うことができている。出来る人ができることを、それぞれの方の得意を活かして

いければと思っています。

■良いこと尽くしに聞こえますが、課題があれば教えてください。

便利になりPTA会議室に集まらなくても作業ができてしまうようになった結果、執行部や委員会の方々、学校の先生方と直接会う機会がとて減ってしまいました。

PTA活動は先生方を始めコミュニケーションをとることも目的の一つなので、最近ではあえて対面で残したほうが良い作業は何かと考えています。

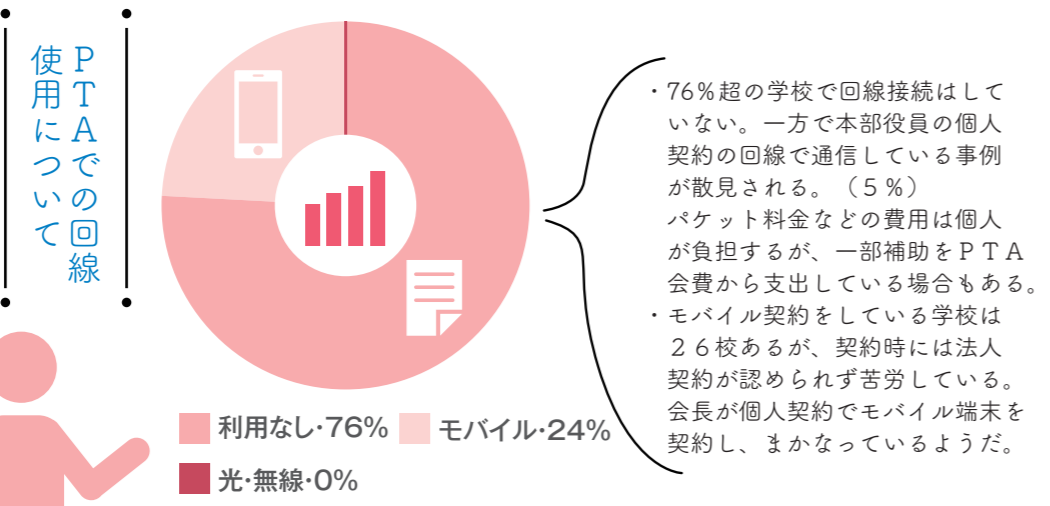
■今後の予定としてICT化で挑戦してみたいことはありますか？

まだ開始して間もないので、この仕組みを整えて長く続けていけるようにしていきたいと思っています。その為に来年度以降も仲間を増やしていかなければと思っています。



今回のインタビューもICTの利用でweb参加の小田桐委員長

PTA活動におけるICTの利用状況に関してアンケートにご協力いただきました



交通安全、各校の取り組み

桜 SAKURA さいたま市立 中島小学校

通学路に道路ペイントを！

数年前より中島小学区内では、道場三室線の大規模な道路工事が行われている。通学路にも大きな車両が狭い道路を通り、通学する子ども達の安全が確保できていないと地区委員の保護者より報告を受けた。直ぐに現場へ確認に行くこと確かにトラックや自動車の往来が今までに比べて増え、ヒヤリとする場面も確認できた。そこで、横断歩道や停止線の設置をお願いしに工事現場事務所に相談してみた。しかし、道路は市の管轄であるため工事が判断はできないと言われた。そこで工務会社から「さいたま市役所、建設局南部建設事務所、道路安全対策課」へ相談してみてもと教えてくれ、早速相談してみた。地区委員長より南部建設事務所へ対応の依頼をしたところ、警察署とも協議し回答をもらうことができた。

横断歩道や車の停止線は、規定があり工事中の道路への設置はできない。しかしながら危険であると判断し代案として、交差点部分（3箇所）を赤色のペイントで囲み注意喚起をする。停止線の代わりに黄色の破線ペイントで注意喚起をする。このような対応をもらうことができた。今後も保護者や地域の皆様とコミュニケーションをとりながら、子ども達の安全について考えていきたいと思う。



大宮 OMIYA さいたま市立 大宮東小学校

地区懇談会を通じて結ぶ 学校と地域の輪

大宮東小では、1年に1回、学区内の地区毎の自治会長をはじめ、各地区の防犯ボランティアや、地区の校外指導部の役員、保護者、さらに先生や児童も集まり、懇談会を行っている。参加者人数は総勢100名ほどであり、それぞれ地区毎に分かれて話し合いをして、通学路の安全の確認や危険箇所の共有をしていただくことになっている。1年に1度、いろいろな立場の方から情報を確認し話していたことにより、日頃気がかりだったことや伝えなかったことを話し合う機会を持つことができていた。またその場では、児童や保護者から各地区の皆様への感謝をお伝えすることで、地域、先生、児童、保護者とのより良い信頼関係を構築している。地道な活動ではあるが、こうした取り組みこそが地域一体となって子ども達を見守る環境づくりの第一歩となり、地域で育む子ども達をより良い環境で守っていくことができる。継続して取り組んでいる。

1年に1回の地区懇談会を無事に終了させるまで、PTA役員による準備など、いろいろな苦労があるが、会終了後に、地域の皆様から晴れ晴れとした笑顔で「ありがとう。明日からも子ども達の見守り頑張るね。」と感謝や励ましの言葉をいただけることにすべてが救われ、活動の達成感を感じることができた。

すべては明るい未来を創る子ども達のために。



見沼 MINUMA さいたま市立 片柳小学校 片柳中学校

通学の問題も地域連携でスッキリ解決

ひとつは、バス通学についての取り組みが挙げられる。見沼区の片柳小はバス通学が認められている。通学距離が3kmを超える家庭が多々あり、学校までの県道が交通量も多く狭いことが要因だ。そこで、過去にバス通学の家庭の負担を減らすために片柳小PTAがさいたま市に要望書を提出した。当初、距離条件の3kmが直線距離があるいは通学路の距離かという点で難航したが、地域の協力を得て、なんとか申請通りに、通学路が3km以上の家庭にバス費用の半額補助が下りる運びとなった。

もうひとつは、通学路についての取り組みがある。以前から不審者等の情報が多く寄せられる危険な場所があり、多くの保護者から不安の声が挙がっていた中で、片柳中の中を通らせてもらうという案が挙がった。片柳小中のPTAの交流が深くすぐさま話を通り、校長先生が快諾してくれたことで中学校の敷地内を通学路にすることが出来た。問題に取り組み、解決に至るまでの期間は実に2週間であった。また、この取り組みには二次的効果も得られた。登校時に中学生の朝練の様子を目にすることで、中学校の生徒達とその学校生活をより身近に感じることができた。普段見ることが出来ない兄弟、または地域のお祭りや友達になったお兄さんお姉さんの勇姿を見ることができた児童もいるだろう。これらは、学校やPTAだけでは難しいことも地域の協力を得ることで解決出来るという良い事例だ。改めて学校とPTA、そして地域が連携を取るこの重要性を感じる。

昨年6月千葉県八街市で起こった児童の登下校中の事故を受け、さいたま市内の学校でも今一度登下校の安全について考えるべきであることから、各学校の交通安全への取組について取材した。

祭りもたらす大きな効果

片柳小と片柳中は、地域の方々の支援の下たくさんの小中合同イベントがあり、非常に連携が取れている。中でも『天王様のお祭り』と『ふるさと発見子ども祭り』は、年々参加人数も増えており、毎年たいへんな盛り上がりを見せる片柳の名物イベントだ。地域の方々の交流を図る絶好の機会ともなっている。

天王様のお祭りは一度廃れた歴史ある祭りであったが、2014年に学校、地域、PTAが一丸となり復活に取り組んだ。子ども達が主役の祭りなので、神輿を担ぐのは中学生、山車を引くのは小学生と花形は決まっております。PTAは交通整理や誘導係など裏方に徹している。以来毎年、児童生徒だけでも200人以上が参加する魅力的な祭りとなった。

また、ふるさと発見子ども祭りは、昔ながらの遊びや餅つきなどを通して地域の方々との交流を図ることを目的とし、小・中学校そして地域の方々の協力により開催されている。この祭りでは、ボランティアの中学生が小学生に昔ながらの遊びを教えている。まるで昭和時代の仲の良い兄弟のようにペーゴマを教えている姿はとても微笑ましい。教わった小学生は中学校に上がるとほぼ皆ボランティアに参加し、次の小学生に遊びを教え、文化を継承している。イベント企画からボランティアの中学生のサポートに至るまで地域の方々とPTAで運営し、双方の連携により多くの子ども達に笑顔をもたらしている。コロナの影響で中止が続いているが、また盛大な祭りで子ども達の元気な声援と笑顔を見られる日が来ることを切に願っている。



埼玉県知事より防犯活動へ感謝状

【緑区】さいたま市立中尾小学校 PTA会長 郡島 典幸



中尾小PTAでは、児童の登校時の見守りのため各子ども会と協力し、危険箇所によって交通指導並びに挨拶運動を行っている。また、PTAだけではなく、地域の防犯ボランティアの方々にもご協力いただきながら、登下校時の通学班同行や、見通しの悪い場所や人通りの少ない場所等の定期的なパトロールも行い、子ども達の安心、安全のために活動している。

埼玉県では、「わがまち防犯隊」と称し、県内の自主防犯活動団体に対し、感謝状を贈呈する式典（埼玉県防犯のまちづくり推進会議主催）があり、中尾小PTAが感謝状をいただいた。（式典の様子は11月24日の埼玉新聞に掲載）この感謝状はPTAのみならずいつもご尽力いただいている地域の防犯ボランティアの皆様にもお披露目し、大変喜んでいただいた。

今後もPTAが中心となり、地域の皆様のお力を借りながら、子ども達にとって安心安全なまちづくりに取り組みたい。

最後にPTA会員の皆様、ボランティアの皆様、そして表彰式を開催して下さった関係各位に感謝申し上げます。



令和3年度日本PTA年次表彰・令和2年度広報紙コンクール表彰

日本PTA団体表彰



集合写真 ※撮影時のマスクを外させていただきました。

文部科学大臣賞

上落合小学校PTA
上大久保中学校PTA

日本PTA会長賞(団体)

大砂土東小学校PTA
大谷小学校保護者と教職員の会

日本PTA会長賞(個人)

遠藤 孝明 (桜木小)
植杉 嘉明 (大谷口小)

※敬称略



(公社)日本PTA全国協議会広報紙コンクール

日本PTA全国協議会会長賞
上落合小学校
「かみおちあいNEWS」

佳作
埼玉大学教育学部附属中学校「おおとり」
西原中学校「飛翔」